2018年度 中国ミッション報告

~転換期にある「中国の今」~

中国委員会は、中国の政治・経済の情勢と成長戦略、産業高度化 に向けた国家戦略、ニューエコノミーの台頭という問題意識を 踏襲し、変化が速い中国の「今」を見るためミッションを派遣。団 長の岩本委員長インタビュー、報告書概要および、視察ハイライ トや小林代表幹事所感などにより報告、紹介する。











INDEX

中国委員会 ミッション報告 委員長インタビュー/報告書概要	12
中国ミッション報告 トピックス	14

┃中国委員会 ミッション報告 委員長インタビュー

多くの人が中国を訪ね、 現地の実態を知り、 関係を深めることが重要

中国委員会(2018年度) 委員長/岩本 敏男

(インタビューは3月14日に実施)

現在の中国は、経済成長が減速しつつある一方で、 新しい技術やビジネスモデルが急速に社会に浸透し 人々の生活を一変させている。大きな時代の転換点に立つ中国の変化は、 今後も、スピードとダイナミズムをより一層増すと考えられる。 イノベーションを次々と生み出す中国の実情を岩本敏男委員長が語った。



ビジネスにおける日中関係は もはや切っても切れない

尖閣諸島の問題などを含む過去の関 係も影響してか、日本では、メディア などから得られる情報に、中国に対し て偏ったイメージが多いように思いま す。それは中国の実情と必ずしも一致 しないのですが、日本企業の現地責任 者が本社に投資を呼び掛けても、経営 幹部を納得させることが難しいという 話をよく聞きます。しかし、サプライ チェーンの観点からもビジネスにおい て日中関係は、もはや切っても切れな い関係にあると言えます。

NTTデータも中国に多くの拠点があ り、私自身、中国とは20年以上の付き 合いがあります。2018年は日中平和友 好条約締結から40周年という節目の年 で、私も経済同友会を代表して記念レセ プションに参加しました。中国のこと はよく知っているつもりでしたが、変 化の速さや広大な国のさまざまな組織 が示す多面性には驚かされます。

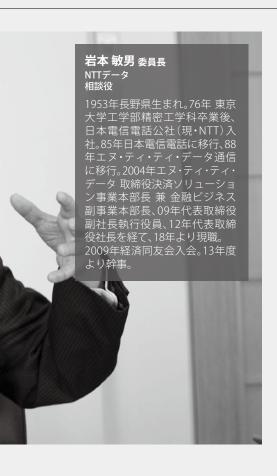
日本の企業経営者は、中国の現状を 自分の目で見て知る必要があります。 そこで、2018年度中国委員会では、中 国の政治・経済情勢を把握し、先進的 な産業高度化に向けた国家戦略の実態 や、イノベーション・ニューエコノミー の最新状況を知ることを活動テーマと しました。そして、12月には今の中国 の現実を見るために、2回ミッション を派遣しました。

産官学連携でイノベーション創出 巨大未来都市「雄安新区」の建設も

現在、米中摩擦が国際的に大きなト ピックになっています。米国はこの1 年で完全に対中姿勢を転換し、エンゲー ジメント (関与) から対峙へと舵を切っ ています。2018年10月にマイク・ペン ス副大統領が行った演説は、それを象 徴するものです。中国の有識者は「経 済的には中国は米国に妥協する」と見 ていますが、自らの国家体制や制度に 米国が踏み込むことは拒否すると明確 に言っています。サプライチェーンが 複雑に絡んでいることを考えれば、両 国が一定の落とし所を見つけ、早期に 関係改善を図る方向に進むことを期待 しています。

米中摩擦がある一方で、多くの中国 人が米国に留学し、働いています。そ して、シリコンバレーで育った人たち が数十万人規模で中国に戻って来て、 北京、上海、杭州、深圳など、「中国のシ リコンバレー」と称される都市で、ベ ンチャー企業を立ち上げています。そ して中国各地に大学のサイエンスパー クが設けられ、イノベーション創出に 大きな役割を果たしています。人材・企 業・ファンドとのマッチング、プロト タイプの製造からスケールアップまで、 ベンチャーを育てるプラットフォーム が出来上がっています。産官学が連携 してシステマチックにイノベーション 創出に取り組んでいるといえます。

また、北京郊外には、緑化と環境保 護・生態系維持に高い優先順位を置き つつ、最先端技術を活かしたスマート シティ開発プロジェクトが習近平国家 主席主導で進められています。深圳経 済特区、上海浦東新区に続く第三の国 家級特区といわれる雄安新区です。造 成が始まったばかりですが、モデルタ ウン的に開発されたエリアでは、無人 店舗や自動配達など、最先端技術の実



証実験も行われています。2035年まで に第一期部分を完成させ、今世紀中ご ろを目安に全面完成を目指しています。 この壮大な計画の実現は中国の技術だ けでは難しいでしょう。日本や欧米の 企業の協力が不可欠だと思います。

中国に一度でも赴けば 間違いなく認識が変わる

中国がすごいのは、取りあえずやっ てみて、駄目ならやり直せばいいとい う発想で、国全体が速いスピードで動 いているところです。確かに政治体制 や制度の違いなど、民間企業として注 意すべきこともありますが、中国との 差異を理解して、日中が相互補完し合 う関係を築き、新しいイノベーション を生み出すエコシステムのようなもの を作ることを考えてもいいと思います。

その基盤として、ビジネスを通じた 信頼関係を深めることが重要です。そ のために、まずは企業経営者をはじめ 多くの人が直接現地を訪ねて、常に「中 国の今」を追うことが必要だと思いま す。一度でも現地に赴けば、間違いな く認識が変わるはずです。

報告書概要(3月7日発表)

2018年度中国委員会 ミッション報告書

~中国の産業高度化、米中摩擦、 イノベーション・エコシステムの今を紹介~

中国は今、経済成長の可能性、米中摩擦の 行方、BATJ*に代表されるニューエコノミー の台頭など、さまざまな面で注目を集めてい る。中国委員会では、変化が速く多様性に富 む中国の今について、企業経営者自身の目で 「今の中国を見る、知る」を目的に、2018年 12月4日~6日に北京、23日~25日に深圳・ 香港と、2回ミッションを派遣した。

その中で①中国の政治・経済情勢と成長戦 略の行方、②産業高度化に向けた国家戦略の 現状、③ニューエコノミーの台頭とイノベー ション、というタイムリーなテーマを軸に有 識者との懇談や視察を行った。中でも政治・ 経済や米中摩擦について、幅広い知見を持つ 有識者、ファーウェイなどのトップ企業、中 国のシリコンバレーといわれる深圳、未来都 市・雄安新区などの最新動向は大きな刺激と なった。報告書は「六つの知見」、「三つの視 察ハイライト」として整理、紹介し、日本およ び日本企業が取るべき姿勢を考察している。

*BATJ:中国の代表的ネット企業4社。百度(バイドゥ)、アリババ集団、騰訊控股(テンセント)、京東集団 (JD.com)。

六つの知見

(1)数値目標から包摂性・持続可能性重視へ

中国政府は中成長・安定成長の持続を最重 要課題としながら、貧困・格差や環境問題な どの社会課題の克服に真剣に取り組み、持続 可能な成長に配慮する姿勢を示し始めている。

(2)世界の工場からテクノロジー・イノベー ション主導経済へ

「世界の工場」モデルが限界を迎える中、産 業高度化・ハイテク化・イノベーション創出を 推進する。課題を認識し産官学が一体となっ て取り組む姿勢を実感した。

(3)成長の担い手、企業・経営者は何を目指し

ファーウェイなどのトップ企業は、スケー ルとスピード感で日本を凌駕する勢いである。 加えて日本との連携から学ぶ姿勢、持続成長 に向けた健全な危機感も兼ね備えている。

(4)イノベーションの巨大実験場としての中 国社会の今

「万人によるイノベーション」を支える産官 学連携の仕組みや、新技術が驚異的なスピー ドで生活に取り入られる社会風土、勢いを確 認した。

(5)「国際協調」のこれから

米中摩擦において、中国は、一定の妥協を せざるを得ないが、国家としての独自性は堅 持する姿勢。一方で国際協調やグローバルな ルールの尊重が重要になるという声も有識者 から聞かれた。

(6)新たな段階の日中関係へ

中国にはまだ発展途上の部分も多く、日本 との新たな相互補完関係に期待するとの意見 が多数あった。これを受けて、今後の日中関 係を新たな視点で考えることが必要。

Ⅱ┃三つの現地視察ハイライト

(1)雄安地区:深圳、上海(浦東)に次ぐ第三の 国家級特区

北京・天津 100kmの位置に建設予定の最先 端都市構想。習国家主席の主導で今世紀半ば の完成を目指す。自然に囲まれた人間的な都 市環境とスマートインフラの共存をうたう。

(2)深圳:イノベーションの実験都市

中国全土にシリコンバレーと呼ばれる都市 が多数ある。中でも深圳は「世界の工場」と して培ったモノづくりの基盤を活かし、プロ

トタイプ製造から量産化まで、スピード感あ る展開力を持つ。また人口の平均年齢が32 歳と中国で最も若く、勢いのある都市という 特徴がある。

(3)香港:中国本土との接近と一国二制度

中国への返還から20年が経過、広州と結 ぶ高速鉄道、マカオと結ぶ大橋が開通し、物 理的にもつながりが深まる。「大湾区」に組み 込まれる香港の現状と一国二制度の今後につ いて、考察、紹介している。

Ⅲ 日本および日本企業が実践すべき事項

- ①企業経営者が自ら現地に赴き、自分の目で 「中国の今」を追うこと。
- ②日中の差異を見極めつつ、国際的なルール 形成に中国を巻き込む。そのためにも信頼 醸成が必要。そして長期的視点で相互利益 の拡大を図る。
- ③相互補完的に協力し、新しいイノベーショ ンを起こすこと。中国からは成長活力・ス

ピード・構想力など、そのダイナミズムを 取り込み、日本からは中国の課題解決につ ながる技術・ノウハウ、グローバル展開等 で支援し、両国の成長機会につなげること。



|中国ミッション報告 トピックス ~中国発のイノベーションのスケー

新都市開発プロジェクトの雄安新区、中国のシリコンバレー と呼ばれる深圳など、中国発のイノベーションをテーマに注 目した視察ハイライトを中心に紹介する。



三つの視察ハイライト

1. 雄安新区

2017年に構想が発表された国家級新 区で、「国家千年の大計」として巨大都 市の計画が進められている。ハイテク 企業や技術・イノベーションの集積、 最先端技術によるスマートシティなど とともに、自然環境を整備した都市を 目指す。

昨年開設した雄安新区市民サービス センターには見学センター、政府機関、 商業施設などが設置されている。無人 運転車が走行し、顔認証で決済する無 人コンビニなど、目指す将来像の一端 を提示している。

2.深圳

深圳は、「中国の秋葉原」といわれる 華強北の電子街を中心に、「世界の工場」 として培ったモノづくりの基盤を活か し、販売のみならず、プロトタイプの 開発量産化の拠点となっている。

先進的だったのがモバイル決済の無 人コンビニ、ロボットによる無人レス トラン、アリババが運営する次世代スー パーである。技術自体は画期的なもの ではないが、まずやってみるというチャ レンジ精神が実験都市として進化する 深圳の原動力になっている。

3. 香港

昨年、香港と広州を47分で結ぶ高速 鉄道が開通し、マカオと結ぶ大橋も完 成。中国政府が推進する「粤港澳大湾 区(グレーターベイエリア)」構想の狙い は、ハイテク企業が集積する深圳、自





①計画の展示など見学者向けに紹介している ②センター内を走行する中国ネット通販JD.comの 無人宅配ワゴン

動車産業中心地の広州を、金融・物流 センターの香港と結び付けることであ る。一国二制度を維持しつつも、実態 面では中国との一体化が進んでいる。







- ③秋葉原の30倍相当の広さの華強北の電子街にて ④QRコードで商品棚を解錠、商品を取り出す ⑤最高時速200km、広州まで47分、深圳まで14分
- ※敬称略。社名・役職は派遣当時

ミッション団員名簿

Mission 1 北京·雄安新区

●団長

<委員長> 岩本 敏男(NTTデータ 相談役)

●団員

<副委員長> 浦田 晴之(オリックス銀行 取締役社長) 川崎 弘一(JSR 取締役専務執行役員) 西 恵一郎 (グロービス マネジング・ディレクター)

平井 康文(楽天副社長執行役員)

他7人、計12人

Mission 2 深圳·香港

●団長(代表幹事)

小林 喜光(三菱ケミカルホールディングス 取締役会長)

●団長

<委員長> 岩本 敏男(NTTデータ 相談役)

●団員

<副委員長> 浦田 晴之(オリックス銀行 取締役社長)

> 大塚 俊彦(EMCジャパン 取締役社長)

弘一(JSR 取締役専務執行役員) 川崎

亮丸(大和総研 常務取締役) 熊谷

信二(東京放送ホールディングス 取締役会長)

西 恵一郎 (グロービス マネジング・ディレクター)

他10人、計18人

(■視察先/○意見交換など)

ミッション日程 主な訪問先

Mission 1: 2018年12月 4日(火)~ 6日(木): 北京·雄安新区 Mission 2: 2018年12月23日(日)~25日(火):深圳·香港 12月23日(日)

12月4日(火)

○国務院発展研究センター 林 家彬/研究員 〇中国人民対外友好協会 宋 敬武/副会長

12月5日(水)

■雄安新区 市民サービスセンター

- ○河北省人民政府 葉 長青/外事弁公室副主任
- ○雄安新区 陸春華/弁公室副主任
- ○中信集団 蒲 堅/執行董事 副総経理および大手企業経営者 12月6日(木)
 - OTusHoldings Co., Ltd. 瀋 全洪/Incubation Business Director

■清華大学サイエンスパーク(TusPark)

〇在中国日本国大使館 横井 裕/特命全権大使

■深圳市街

- 〇在広州日本国総領事館 石塚 英樹/総領事
- ○ジェトロ広州事務所 清水 顕司/所長

12月24日(月)

■ B Y D

- ○BYDジャパン 劉 学亮/社長
- ■ファーウェイ
- 郭 平/輪番CEO ○ファーウェイ
- ○ファーウェイ・ジャパン 王 剣峰/代表取締役社長

■深圳清華大学研究院

- ○深圳清華大学研究院 劉 仁辰/副院長
- ○在香港日本国総領事館 和田 充広/大使兼総領事
- 〇日本銀行 小島 亮太/香港事務所長

■小林代表幹事 ミッション所感

日本に求められる国民主導のデジタル化

約40年前に鄧小平氏が改革開放を始め、2010年にはGDP で日本を追い抜き、米国を猛迫する中国。いまやデータや 先進技術の覇権を巡り、既存の国際秩序を突き動かしてい るのはご承知の通りだ。 「眠れる獅子」 がついに目覚めたこ とは誰も否定できないだろう。

今回は中国委員会・岩本委員長のミッションで、ネット系 企業の集積地として目覚ましい発展を見せている深圳を訪 問すると聞いて、飛び入りで参加させてもらうことになった。

25年近く前、記録メディア事業に携わっていたころ、深 圳には米国西海岸同様よく訪ねた。当時は文字通り、中国 が世界の工場として急成長を遂げていた時代である。マー ケットに足を踏み入れると、わが社のCD-RやDVD-Rのコ ピー品・フェイク品が山のように積まれていて、苦々しい 思いをした記憶がある。当時から少しずつ高層ビルが建ち 始めてはいたが、まだどこか埃っぽく雑多な雰囲気に包ま れていた。

まさに想像通り、深圳の風景は一変していた。競うよう に連なる超高層ビルときれいに整備された道路と街路樹、 当たり前のように走る電気自動車、そして街中に張り巡ら されたセンサーカメラ。折しもわれわれが訪問した日はク リスマスイブの前日で、夜になると「明日への渇望」を象徴 するかのように、高層ビルの至る所が中国らしく派手に LEDでライトアップされていた。

BYDやファーウェイを訪問してまず感じたのは、若さと 活力である。われわれとの会議にも20~30代と思われる 若手スタッフが当たり前のように出てきて、いわゆる中高 年の社員をほとんど見かけない。彼らを魅了するのは、起 業・創業がしやすいエコシステムなのだという。とりわけ、

米国の大学を出た後、シリコンバ レーで働いてから中国に帰国する、 いわゆる海亀族にとっては絶好の 環境なのだろう。



また、中国で進んでいるといわれるキャッシュレス、ア リババの無人店舗、あるいはネット配送サービスの現場を 訪れて、実際に体感もさせていただいた。確かにどれも「な るほど」と思わせるものではあったが、正直なところ日本 で既に導入している、あるいは導入できるレベルのものと 大差ないように感じられた。むしろ日本と中国で大きく異 なるのは、国民自身のデジタル化のスピードではないだろ うか。中国では偽札が多く出回っているせいもあるが、老 若男女が積極的にキャッシュレスやネットを利用し、それ が社会変革を後押しする大きな力になっている。一方日本 では、キャッシュレス決済などのデジタル化になじまない 層が高齢者を中心に少なからず存在し、結果として旧来の アナログな社会インフラが残りがちである。マイナンバー の普及率もいまだ12%と低迷している。わが国では「デジ タルディバイド」という言葉で、デジタル化についていけ ない、あるいはついていこうとしない人々を安易に、慮っ て、デジタル化が鈍ってしまう傾向にあるが、このままで は世界からますます後れを取ってしまうだろう。

Japan 2.0の提言では、日本人の強みは外から異質なも のを取り入れ、最良のものを作り上げる「最適化能」にあ ると申し上げた。その強みはどこに行ってしまったのだろ う。常に世界のデジタル化の動きに目配りして比較優位を 目指していくことが肝要であることをあらためて実感させ られた。井の中の蛙であってはならない。